

2011年2月7日

会員・関係 各位

特定非営利活動法人 KHJ 香川県オリーブの会
連絡先 TEL・FAX 087-843-9877 (川井)

ホームページ <http://khj-olive.com/>



居場所の駐車場の傍らに植えられている水仙の花が、昨年同様 ぽつぽつ咲き始めました。

その花をみると、ほんの少しほっとします。

最近、民放とNHK TVで親の会を取材した、ひきこもりに関する番組が放送されました。それだけひきこもり問題に関わっている親の会にも注目度が増してきているのでしょうか。

2月の月例会を下記の通り開催いたしますのでご案内申し上げます。

第104回月例会ご案内

1) 日 時 **2月20日(日)**

13:00~13:30 受付

13:30~13:40 報告・連絡

13:40~15:20 **テーマ「発達障害について」**

講師 医療法人 五色台病院

精神科医 伊達 健 司 氏

質疑応答

15:20~15:35 休憩

15:35~16:30 **グループ別話し合い**

2) 場 所 **香川県社会福祉総合センター 6階 研修室**

TEL 087-835-3334 県庁の斜め向い

3) 参加費 会員：1家族 1000円 非会員：1家族 1500円

【今後の月例会】

- 2011年3月27日(日) 香川県社会福祉総合センター 6 F (13:30~16:30)
- " 4月24日(日) " (13:30~16:30)

【居場所活動予定】

- 2月 5日(土) 第10回運営委員会 (13:30~16:30)
- 2月 26日(土) 第11回運営委員会 (13:30~16:30)
- 2月 12日(土) 松田勝先生 個人カウンセリング (9:00~14:00)
- 2月 6日(日) (13:30~16:00) ・ 27日(日) (13:30~16:00)
ポパイの会・パソコン教室 (指導 森下氏・井上氏)

【ポパイの会(若者グループ)から】

Microsoft Office Specialist 問題集の Word 2003 と Word 2007 をそれぞれ勉強しました。文書内に図形を挿入して装飾する方法、テキストボックスを使った文書作成、特殊な文字の入力方法、スペルチェック機能の使い方などを学び、問題を解きました。問題集テキスト・ソフトがそれぞれ Word 2003, Word 2007 と別々であったため、自分で問題を解いていて要所所でアドバイスをしてもらいました。(独法) 福祉医療機構 地域活動支援事業)

【ひきこもり対策チーム会議より(2/3開催)川井】

去る2月3日(木) 県庁北館に於いて、平成22年度 第4回「ひきこもり対策チーム会議」が開催されました。県障害福祉課 土岐課長の「ひきこもり地域支援センターへ向けて、新たにどう取り組んでいったらいいかなど、忌憚のないご意見をお願いします。」との挨拶がありました。また「ひきこもり地域支援センター」設置に向けて “予算的な要求をしているところです。” とのことでした。そのあと、谷本技師より「ひきこもり対策チーム会議」のまとめ報告が次の通りありました。・話題提供 ・どのような施策が必要か ・事例検討と支援の実態 ・どういったものを求めているのか(自立支援、資金援助など) ・医療に繋がられない ・ひきこもり外来が必要 ・即対応ができない ・面接技術のスキルアップ ・小、中、高では支援があるが、切れたときの支援がないなどまた、事例検討についてその後どのような支援に繋がっていったかなど報告がありました。当日の話題提供者は、香川大学教育学部 准教授 竹森元彦氏で テーマ「ひきこもりの当事者と家族の理解と支援のあり方」についてでした。最後に次年度ひきこもり対策について及び意見交換をいたしました。

「ひきこもり地域支援センター利用について」

アンケート結果報告(2011/01/23 アンケート実施)

1. 利用したい 15人/20人 : どのようなセンターを希望しますか。
 - ① 精神に関係なく、ひきこもりを気軽に相談できる場所。
 - ② 役所的な堅苦しい雰囲気での相談窓口ではなく、様々な状況にある当事者、親のニーズに対応できる(対応しようとする)理解あるスタッフの充実。
 - ③ 個人の状態、希望に合った支援、医療、相談機関がすぐ紹介できるようなセンター、また同時にそういう機関を整備していけるようなセンター。
 - ④ 訪問支援スタッフがいて、相談できること。
 - ⑤ 相談窓口は関係機関に繋がったら終わりではなく、長期的に支援する体制が望ましい。
 - ⑥ 予算を十分に生かした支援が行われるセンター。
 - ⑦ 親の居場所的なものが設置され、常時 専門スタッフがいて相談できたり、また親同士の

情報交換の場にもなるセンター。

- ⑧ 県外の精神科医、カウンセラー、訪問支援の内容、実績情報などの提供が受けられる。
- ⑨ センターに関わっていない当事者も、いつでも参加できて仲間とノルマを気にせず仕事ができる場所があればいい。(若者の居場所)

アンケート回答者 20 人のうち、5 人の方はすぐに利用しようと思わないという回答でした。既に医療機関等を利用、体制が十分に整ってから利用したい、本人が希望しないから等という理由からでした。

親としては、相談窓口も相談員の給料だけに消えるような画一的な窓口ではなく、もっと多様な支援を望んでいる方が多いのではないかと思います。(例えば訪問支援スタッフが常時いるなど) また、堅苦しい雰囲気の家教室(家族支援)ではなく、例会でおしゃべりしている延長線上にあるような、専門スタッフを交えアドバイスも受けられる親の居場所的なものも希望しています。その場合一度に親が集まるのではなく、5、6 人くらいのグループから始めるのがいいのではないかと思います。

会員の方の多くはどこかとは繋がっていますが、あまりにもひきこもりの若者の状態が様々で、訪問支援一つでも「殆ど部屋から出ないで、家族との会話もない」状態と「部屋から自由に出ていて家族と会話ができるが、外へは出られない」という状態の若者の訪問支援では随分違ってきます。親は対応に限界を感じています。本当に一人一人に寄り添った支援を必要としています。

3 日の竹森先生のお話でもありましたが「出口のない、道筋のない」大人組みのひきこもりの子の支援と、その子を抱える親の支援も必要としています。

もう一方では、ある精神科医曰く「親の会の役割も(親の会があるだけで)ひきこもり情報の空白地域が減少し、悲惨なひきこもり事件発生の抑止にもなっている」と。

以上